

2013 年度年次報告書



国際青年環境 NGO
A SEED JAPAN



2013/12/22(日)「A SEED DAY 2013～アクション de・つながる人々・大集合～」

| | |
|----------------------------------|----------|
| 2013 年度代表より | 3 |
| A SEED JAPAN の使命 | 4 |
| SEED VISION2030 | 5 |
| SEED PLAN 2013 年度評価・2014 年度計画 .. | 6 |
| ごみゼロナビゲーションチーム | 6 |
| エコ貯金プロジェクト | 8 |
| ケータイゴリラチーム | 10 |
| 未来生活 now プロジェクト | 12 |
| エネルギーとまちづくりプロジェクト | 15 |
| エシカルメタルプロジェクト | 15 |
| 水源 WATCH! プロジェクト | 16 |
| 2013 年度の主な実施事業 | 17 |
| 2013 年度組織的ニュース | 18 |
| NPO 法人格の取得について | 18 |
| Panasonic 助成「組織基盤及び基盤強化事業」 | 19 |
| アースデイ東京 2014 | 20 |
| 組織概要 | 21 |
| 2013 年度全体決算 | 23 |

2013 年度代表より

アメリカの先住民の間には、子どもが1人育つためには100人の親が必要だという諺があるそうです。今、この言葉を前にして、私たちの町を思い浮かべ、なんとも言えないような気持ちになるのです。忙しい人が増え、学び合い語り合いのできない窮屈な時間を共有するようになりました。毎日を漫然と過ごしている訳でも無いのに、目を瞑り一息つくうちに、夢のように時間が流れていきます。多くを吸収し、学ぼうと本を開く間にも、劇的に社会は変化しています。種を蒔けば、勝手に芽が出てきて、ひとりでに育つわけでもない。先述の諺の「子ども」を「社会」に置き換えた時に、この苗を、どう育てていけば良いかは、私たち一人一人に与えられた課題であるように思います。

いつの日か、誰かの親になるまで、私たち若者は誰かの子どもです。厳しく、暖かく見守ってくれる大きな愛に感謝しつつ、親になる時までの準備も欠かせない。人間らしく暮らせる社会をどう作っていくか、今年もA SEED JAPANの若者たちと考えていきたいと思っています。



2013 年度共同代表 浅田 麻衣

現在の社会が目まぐるしく変化しているのはみなさんが実感している通りかと思います。そして、その中で活動しているA SEED JAPANも目まぐるしく変化しています。

2月からは「ごみゼロナビゲーション」がASJのチームとしての活動を終え、新たな団体「iPledge」として活動を始めています。4月よりは「特定非営利活動法人」として組織を運営しています。活動する内容も、ASJに集まってくる人たちの考えや、やりたい事も変化してきていると思います。今、ASJはそのような変化に対応し、これからどのような活動して、そのためにどのような組織体制・運営が良いか、試行錯誤しながら邁進している最中です。去年からPanasonic NPO サポートファンドの助成を受け、組織基盤強化に取り組んでいるのもこの一例です。時には傍から見ていて、至らない点や不安になる点もあるかもしれませんが、私たちもそのようにならないよう努めています。何かご意見等があれば伝えていただけると活動の一助になります。

今後も若い世代が活躍していける組織、ひいてはそのような社会になるように、A SEED JAPANは環境の変化に対応しながら、みなさんと一緒に進んでいければと考えます。これからも様々な形でのご支援をいただけると有難いです。



2013 年度共同代表 梅本 一成

A SEED JAPAN の使命

A SEED JAPAN は、環境問題の中に内在する社会的不公正の解決を目指し、以下のことを踏まえ行動します。

1. 環境問題を経済や社会構造そのものから見据えていきます

私たちは、環境問題や南北問題が進行している原因は経済や社会の構造そのものにあると考え、その根本にある原因を見据えて行動します。

2. 青年の立場から環境問題をわかりやすく伝えていきます

私たちは、環境問題や社会的不公正について、またそれらの問題と私たちのライフスタイルが密接につながっていることを、青年をはじめとする多くの人々にわかりやすく伝えていきます。

3. 長期的視野を持って社会を変えていきます

私たちは、地球の未来を危惧するメッセージを継続的に発していきます。そして、長期的な視野を持ち、現在の社会システムを変えていくための提案と行動を起こしていきます。

また、A SEED JAPAN は以下の立場を担っていこうという認識を持ち、行動します。

未来世代である青年としての立場

私たちは青年としての立場から、未来世代の利益を訴えていきます。また、現在の社会を変革し、新しい社会を創造していくことのできる存在として、誇りを持って活動します。

NPO（非営利組織）としての立場

私たちはNPOの一員として、その社会的責任を認識して継続的に組織を運営していきます。そしてNPO全体が相対的に強化されるように、協力していきます。

行政・企業・NPOのパートナーシップを創造していく立場

環境問題を解決するためには、行政・企業・NPOのそれぞれが持つ問題解決能力をお互いに理解し、連携していくべきだと考えます。私たちは行政・企業とのパートナーシップ、そしてNPO同士のパートナーシップを創造していきます。

世界の青年と協力し合う立場

国境を越えた環境問題に対応するためにも、また”南”の視点を十分に理解するためにも、私たちは草の根で活躍する世界の青年たちと積極的に協力していきます。

Action:

目先の状況にとらわれることなく、社会問題の現場から根本原因を見据えて、長期的視野をもって活動をしていきます。また、未来世代に負の遺産を残さないよう、多様な観点から議論し、政府や企業などあらゆるセクターへ働きかけていきます。

Solidarity:

人種・民族・文化等の社会的立場にとらわれず、互いの違いを認め合うことを大切にし、周縁にいる人々の声を意思決定に反映するために行動します。そして、問題の解決へ向けて多様な糸口を導きだし、協力して問題解決に取り組むことのできる社会を目指します。

Equality:

資本主義の行きすぎによる、世代間・地域間における所得・情報等の格差をなくし、機会の平等と社会的公正を確保して、現在および未来世代の権利を守っていきます。

その権利を守るために必要な役割を、私たちの責任として果たしていきます。

Environment:

現在および未来を生きるあらゆる生命を尊重し、予防原則に基づいて、未来世代の権利を損なわない地球環境を創ります。経済発展の裏側で深刻化する自然環境および人間環境の破壊を止め、自然と共生できる社会を目指します。

Development:

小さな利益を皆で分け合うことで多くの安心を生みだすことに価値を置く社会を目指します。そのために市民が果たすべき責任に対して主体的に向き合い、権利を主張できる社会を形成します。これを「新しい開発」と定義し、実現していきます。

SEED VISION 2030 策定の経緯

ごみゼロナビゲーションチームの分離・独立、ASJのNPO法人化などに向けて、改めてASJの目指す社会とそのためのアクションについて考える必要性を感じたメンバーにより2013年7月「未来委員会」が発足しました。そこで、私たち自身がどんな社会で生きていきたいか、ASJとしてどのような社会を目指すべきか議論が重ねられ、2013年12月1日A SEED JAPANが2030年までに目指す社会を記した「SEED VISION 2030」を策定しました。